

# 伊丹ルーテル教会主の復活節第2礼拝

## 2021年4月11日

### 前奏：

#### 招きのことば：詩編 133 編

見よ、兄弟が共に座っている。なんという恵み、なんという喜び。  
かくわしい油が頭に注がれ、ひげに滴り 衣の襟に垂れるアロンのひげに滴り  
ヘルモンにおく露のように シオンの山々に滴り落ちる。  
シオンで、主は布告された 祝福と、とこしえの命を。

#### 罪の悔い改めと赦しのことば：

**会衆：**私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。  
思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に  
罪人です。神様、本当にごめんなさい。私たちは祈ります。私たちが救うため あなたが  
お与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。  
(短い黙祷を持ちましょう)

**牧師：**何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・  
キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ  
務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお  
名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。 **アーメン。**

#### 使徒信条

**われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。**

**われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。**

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、  
十字架につけられ、死して葬られ、  
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。  
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだの  
よみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。**

#### 祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。

イエス様は私たちの罪を赦すために十字架にかかって死んでくださって、私たちに新しい命を与えるために3日目によみがえってくださいました。今朝も私たちはあなたのみ言葉にあずかるためにここにおります。

新型コロナ・ウィルスの感染が拡大し身近に迫っています。さらに緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、平安に、またいのちあふれて歩む一日一日としてください。この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

### **使徒書朗読：第Iヨハネ1章5節-2章2節**

わたしたちがイエスから既に聞いていて、あなたがたに伝える知らせとは、神は光であり、神には闇が全くないということです。わたしたちが、神との交わりを持っていると言いながら、闇の中を歩むなら、それはうそをついているのであり、真理を行ってはいません。しかし、神が光の中におられるように、わたしたちが光の中を歩むなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血によってあらゆる罪から清められます。自分に罪がないと言うなら、自らを欺いており、真理はわたしたちの内にはありません。自分の罪を公に言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、罪を赦し、あらゆる不義からわたしたちを清めてくださいます。罪を犯したことがないと言うなら、それは神を偽り者とすることであり、神の言葉はわたしたちの内にはありません。

わたしの子たちよ、これらのことを書くのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。たとえ罪を犯しても、御父のもとに弁護者、正しい方、イエス・キリストがおられます。この方こそ、わたしたちの罪、いや、わたしたちの罪ばかりでなく、全世界の罪を償ういけにえです。

### **福音書朗読：ヨハネによる福音書20章19-31節**

その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。そう言って、手とわき腹とお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」

十二人の一人でディディモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。そこで、ほかの弟子たちが、「わたしたちは主を見た」と言うと、トマスは言った。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」

さて八日の後、弟子たちはまた家の中におり、トマスも一緒にいた。戸にはみな鍵がかけられてあったのに、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。それ

から、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」トマスは答えて、「わたしの主、わたしの神よ」と言った。イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」

このほかにも、イエスは弟子たちの前で、多くのしるしをなさしたが、それはこの書物に書かれていない。これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。

### **讚美歌 147**

- 1 喜ぶたたえよ、主は死に打ち勝ち、陰府(よみ)より帰りぬ ハレルヤ、ハレルヤ、ハレルヤ
2. **勝利(かち)の主 迎えて たたえの花束、み前にささげよ ハレルヤ、ハレルヤ、ハレルヤ**
3. 今日よりときわに 尽きせぬいのちは、この世を潤さん ハレルヤ、ハレルヤ、ハレルヤ
4. **いのちの主をほめ、もろごえ合わせて この日をたたえよ ハレルヤ、ハレルヤ、ハレルヤ**  
**アーメン**

### **説教：「見ないのに信じる人は幸いである」**

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様が死人の中からよみがえってくださったイースターの季節です。毎年、礼拝でイースターのご挨拶をしています。「ハレルヤ、イエス・キリストはよみがえられました」と言いますから、皆さんは、「ハレルヤ、イエス・キリストはたしかによみがえられました」とおっしゃってください。

牧師：ハレルヤ、イエス・キリストは、よみがえられました！

会衆：ハレルヤ、イエス・キリストは、たしかに、よみがえられました。

イエス様はよみがえられました。しかし、はじめはみんな信じることはできませんでした。イエス様は何度も予告して下さっていたのに、弟子たちは十字架も復活も予想していませんでした。彼らは恐れと戸惑いに支配されて、悲しみの壁の中に引きこもっていました。よみがえられたイエス様は、ご自分から人々のところに来て下さって、ご自分をあらわしてくださいました。

マグダラのマリヤは復活の朝早くお墓に行ってイエス様のお体がないことで驚いて弟子たちに伝えました。弟子たちも来てイエス様のお体がなくなっていることを見ました。悲しみのあまり呆然としていたマリヤにイエス様が現れました。しかしそれでもそれがイエス様だとわかり

ません。まだ恐れと戸惑いがありました。よみがえるということをもっと聞いていたのに、まったく予想していなかったのです。マリヤ、となつかしい言い方で名前を呼ばれて、はじめてそれがイエス様だと気づきました。私は主を見ました、と弟子たちのところへ再び訪ねて喜びを伝えました。

イエス様が復活されたのに、そして私は主イエス様を見た、という証言を朝、聞いていたのに、その日の夕方になっても弟子たちは恐れていました。イエス様を十字架につけた人たちはまだまちのなかをうろろしている。三日前、あのむごたらしい拷問にかけられ、人々の見ている中で辱めをうけて、はりつけにされて殺されたイエス様のように、もし見つかったら、自分たちもイエス様の仲間ということで十字架につけられてしまう。なんということになってしまったのだ。イエス様の弟子として歩んできたことは何だったんだ。見つからないようにみんなで一緒に家の戸を閉じて集まっていよう。弟子たちを恐れと戸惑いが支配し、壁の中で引きこもっていました。

そこにイエス様が真ん中にあらわれてくださいました。閉じられた扉を通して入ってきてくださったのです。平和があるように、とあいさつされました。神様との平和があるように、あなたたがの間で平和があるように、あなたがたの心に平安があるように、などいろいろな意味を込めた当時の挨拶のことばでした。そして、イエス様は手とわき腹を見せてくださいました。弟子たちは、イエス様を見たので、たいへんうれしくなりました。イエス様はもう一度、あなたがたに平和があるように、とおっしゃって、ちょうどマグダラのマリヤに行き行って伝えなさい、と命じられたように、弟子たちにも「あなたがたを遣わす」と使命を託されました。弟子たちには息を吹きかけられ、聖霊を与えて、人々の赦しと裁きの鍵を託しました。

復活を信じることができず恐れとまどっていた弟子たちに、主イエス様の方から来てくださって出会ってくださってご自分の手と脇を見せてくださったのです。それは暗闇の中にいた弟子たちが、イエス様という光が入ってきたとき、それをイエス様だと悟り、認め、受け入れたということでした。

ヨハネの福音書の最初のところで、まことのロゴスであるイエス様、ことばであるイエス様にいのちがあり、いのちは光となって人を照らすとされていました。この光は暗闇で輝いているが人はそれを理解しなかったというのです。ヨハネの福音書8章や9章では、イエス様がわたしは世の光です、と言われていました。光は闇の中に輝いています。お弟子たちの心の闇の中に、イエス様がいってこられました。扉を閉めているのに、入ってきてくださいました。内側からあけていないのに、入ってきてくださいました。弟子たちの真ん中に立ってご自分の手とわき腹をお見せになりました。生きている温かい手とわき腹です。十字架にかけられるときにくぎを打ち込まれた手の傷、十字架の下から兵隊たちにやりで突かれたわき腹の傷を弟子たちはその目で見て、イエス様だ、と信じたのです。よみがえられたイエス様にお出会いして心から喜びました。イエス様はヨハネの福音書の13章で、あなたがたはこの世では艱難がある、し

かし勇気を出しなさい、わたしはすでに世に勝っている、と言われました。信じた弟子たちには勇気が与えられ、聖霊のいぶきによって恐れなく、戸惑いなく、イエス様の証し人として、人々の罪をイエス様の聖名による赦しの宣言をする働きに遣わされたのです。

私たちも、ほかの人から、生きておられるイエス様を信じた幸いを聞きます。それでもなかなか弟子たちのように恐れと戸惑いがある自分事として信じることができません。私などにイエス様は現れて下さるのだろうか、それは昔のお話で、今はそのような昔の物語りから自分なりに意味をくみ取って歩いていくのだろうかと思ってイエス様を適当に信じていきます。それでも心にはいろいろなものへの恐れや戸惑いがうずまいています。

そこに今、イエス様が来てくださいます。イエス様は光のようにあなたの心の真ん中に来てくださいます。生まれつきの私たちはイエス様をさとることができません。そのような心が、イエス様を十字架につけてしまいます。イスラエルの人々は神様を信じていました。けれども約束の救い主であるイエス様が来てくださったのにイエス様を十字架につけました。イエス様を救い主と信じる人が増えたら、統治者であるローマの人々が支配関係を転覆する謀反だと判断し、軍隊を送り込んでイスラエルを滅ぼすことを恐れたのです。弟子たちも民も、イエス様が少々の困難は乗り越えて、きっとユダヤ人の王として君臨して下さる、と思っていましたが、期待を裏切られて「十字架につけろ！」と叫ぶ民となりました。光が来たのです。けれども罪の赦しを与えるイエス様を悟りませんでした。受け入れませんでした。信じませんでした。そして暗闇が光を吹き消してしまったかに見えました。

イエス様は、人々のかたくなな心をご存じです。そして、人々の手に身をゆだね、殺されてくださいました。実はそのようにして人々の罪をその身に負われたのです。そして神様の罪の裁きを、彼らの身代わりに受けて、死んでくださいました。神様に信頼できない罪びとが、そうせざるを得ないことを反対に用いて、罪びとにかけられた十字架上で、その罪びとの赦しを成し遂げてくださいました。

それは、父なる神様のご計画でした。救い主を送っても受け入れず、信じない人々であることをご存じで、その真ん中に救い主を送ってくださいました。御子イエス様を必要としない、と無視する心、一定の距離を置く、心の中にイエス様がはいらないようにするかたくなな私たちのために、都の外へ連れ出されたイエス様は十字架にかけられました。それは私たちの罪を赦して、私たちが恐れなく、戸惑いなく、勇気を出して、神様の子どもとしてのあたらしい命をいただくためです。こう祈りましょう。「神様、あなたは私のすべてをご存じです。そして光であるイエス様を送ってくださいました。十字架で私の罪の赦しを完成してくださったイエス様が、今よみがえって私の心の真ん中に来てくださっています。平安があるように、と行ってくださっています。信じます。神様の子どもとして歩ませてください。」

トマスというお弟子がいました。彼はどういうわけかほかの弟子たちと一緒にいませんでした。ユダヤ人たちを恐れていなかったのかもしれませんが。別行動をしていたようです。ほかのお弟子たちがトマスに「私たちは主を見た」と伝えました。トマスはそんな言葉では私は信じない。自分の指と手でイエス様の手とわき腹の傷を確認しないと、ぜったい信じません、と言い切りました。かたくなですね。でも、マリヤから証しを聞いた弟子たちも、はじめは信じれなくて、恐れて集まっていたので、トマスのかたくなさにてあっても、以前の自分たちと同じと思ったのでしょうか。八日のち、次の日曜日にも弟子たちが集まるところにトマスを誘いました。

イエス様は果たして次の日曜日にも鍵をかけて家の中にいた弟子たちの真ん中に現れてくださいました。平和があるように、という挨拶のあと、トマスに向いてくださいました。わたしの手に指を入れ、わき腹に手をいれなさい、信じる者になりなさい、と言われました。イエス様はトマスが言った言葉をご存じで、トマスが信じることができるためだったらどんなことでも、自分の傷跡に触らせることもいとわないのです。トマスは圧倒的なイエス様のご愛にふれて、つい「わたしの主よ、わたしの神よ」と信仰の告白のことばを発しました。イエス様は優しく、あなたはわたしを見たから信じたのか、見ないのに信じる人は幸いです、とおっしゃいました。

ヨハネによる福音書は私たちが見ないでもイエス様を神の子救い主であることを信じ、そう信じてイエス様のお名前によって私たちがいのちにあずかるために書かれました。マグダラのマリヤの証言を聞いて、弟子たちが信じることができるように、弟子たちの証言を聞いてトマスが信じるができるように、そして聖書の証言を聞いて、私たちが信じるができるようにと、この福音書が書かれたのです。恐れと戸惑いの闇と引きこもりの真ん中に、よみがえってくださった光なるイエス様は、み言葉の語られるところでご自分を現してくださり、あなたに平安と使命を与えてくださいます。さあ、イエス様を救い主として受け入れ、信じましょう。

ヨハネの福音書 1章 12節、13節「この方はご自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった。しかし、この方はご自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子どもとなる資格を与えた」。

この一週間、暗闇の真ん中に来て、罪を赦し、平安を与え下さる生ける主イエス様に信頼して、新しいいのちといぶきにあずかって、与えられた使命に没頭して歩む一週間となりますように、ご一緒にお祈りいたしましょう。

祈りましょう。「愛する天のお父様、イースターの恵みを感謝いたします。暗闇の真ん中に来て安らぎといぶきを与えて下さるイエス様を信頼します。今週もよみがえってくださった主イエス様とともに新しいいのちを歩みます。イエス様の証し人として伝えます。主イエスの名前で祈ります。アーメン」

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン。

牧師：ハレルヤ、イエス・キリストは、よみがえられました！

会衆：ハレルヤ、イエス・キリストは、たしかに、よみがえられました。

### 讃美歌 243 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 ああ主のひとみ まなしよ きよきみ前を 去りゆきし  
富める若人 見つめつつ 嘆くはたれぞ 主ならずや
- 2 ああ主のひとみ まなざしよ 三たびわが主を いなみたる  
よわきペトロを かえりみて ゆるすはたれぞ 主ならずや
- 3 ああ主のひとみ まなざしよ うたがいまどう トマスにも  
み傷しめして 「信ぜよ」と 宣らすはたれぞ 主ならずや
- 4 きのうもきょうも かわりなく 血しおしたたる み手をのべ  
「友よ、かえれ」と まねきつつ 待てるはたれぞ 主ならずや **アーメン**

### 主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

### 頌栄：讃美歌 541 番

父、御子、御霊のおお御神に ときわに たえせず み栄えあれ み栄えあれ **アーメン**

### 祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**

### 後奏